

子ども達を放射能から守り隊 これまでの活動

7月16日 請願書その1

7月22日 請願書その2

7月27日 市長の部屋にて要望

7月29日 請願書その3

⇒市からの回答 8月26日付け

おおむね「検討する」「努力する」というもので具体的な対策がとられていない印象

それらを踏まえて請願書その4では次の要望をしていきます。

① 広報おうしゅう8月号記事について訂正を求めます

8月下旬で撤廃される $3.8\mu\text{Sv/h}$ の数値以下を安全基準として示したり、流通している食物はすべて安全だから私達は何の努力もしなくても被ばくすることはないというような無用な安心感を与え、何もしなくてもほぼ大丈夫であるかのような市民の被ばくを容認する記事は訂正しなければなりません。

② 放射性物質拡散防止のため野焼きの禁止と、衛生センター焼却炉にフィルター設置を求めます

飛灰に放射性セシウムが多く含まれることから、野焼きで大気中に放射性物質をばら撒き肺に取り込むことがない様にし、ゴミ焼却所に放射能除去フィルターを設置します。

③ 食品の放射能検出器ガンマスペクトロメーターの設置を求めます

家庭菜園で取れたものや、スーパーで求めたものが本当に安全か、確かめられる機器を導入し、市民が使えるようにします。

④ 地産地消の見直しや牛乳の安全性を考え、学校給食の安全確保を求めます

県が行っている調査はすべての品目について行っているわけではないので、検査体制が強化されるまで学校給食では地元周辺の汚染されているかもしれない野菜や牛乳を使用しません。

⑤ 子ども達の健康調査を求めます

尿検査やホールボディーカウンターにより、子ども達の被ばくを調べます。

⑥ 全市を挙げて除染の取り組みが出来るよう指導を求めます

放射線管理区域となる $0.6\mu\text{Sv/h}$ 以上の地点を官民、力を合わせて除染します。

⑦ 子どもの安全な遊び場を確保を求めます

既存のエンゼルプラザ、子育て広場の土日開放、子ども達が屋内で安全に遊べる場所を確保します。

⑧ 農地の土壌汚染を調査し、生産される農作物の放射能検査を徹底を求めます

奥州市のブランド品を守り農産物を守っていくために、農地の土壌汚染状況を調べ、農産物の放射能検査を徹底することにより、消費者が安心して買い求め、生産者が風評被害に遭うことのないようにします。

⑨ 放射能から自分たちの身を守るための情報を市民に広め、勉強会等の開催を求めます

まだホットスポットである事実を軽く受け止めている市民のため、これから何十年と続く放射能との闘いについて正しい知識と予防策について身に付け、皆が安心して暮らしていけるようにします。